

第45回研究推進協議会が11月21～22日の2日間、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。

開会に当たり、柿崎秀顕会長より、全国からの参会と、10月に開催された第68回全国へき地教育研究大会長野大会に、各都道府県から多数の参加についてのお礼及び挨拶がありました。

研究協議会は全国研究大会とともに、本研究連盟の二大行事であり、各都道府県の研究部長などが集まり、へき地・複式・小規模校学級の教育について、各地の実践研究の交流と本研究連盟の研究推進計画の共通理解を図り、全国的な共同研究体制の確立を目指して毎年開催しています。

また、第9次長期5か年研究推進計画の初年度として、今年度は全国すべてのブロックで研究大会を開催し、新しい研究課題を掲げ足並みをそろえ、新たな一步を踏み出すという10年に一度の大変重要な年と位置づけています。そして、会長二年目として、今年はブロック総会も含めてすべてのブロックに参加し、確認できたこととして、どのブロックも分科会において、意欲的に教材開発に取り組み、児童生徒の実態に合わせた教育課程をつくりあげ、実践されていたこと。また、分散会においても、運営方法に数々の工夫が見られ、参加した多くのブロックにおいて、若い先生やベテランの先生、管理職までも同じテーブルにつき、話し合いをワークショップ形式で行うことにより、活発な情報交換が行われ、研究の輪を一層広げる実り多き研究大会となっていると強く感じました。

一方、どのブロックにおいても、へき地・複式・小規模校を取り巻く環境は、町村合併や学校の統廃合等の厳しい状況下にあり、加盟校が年々減っていく中、本大会を開催するために実行委員会の皆様にはこれまで数々のご苦勞があったこと推察しました。

あるブロックからは、これからも伝統の研究大会を継承していくためにも大会基本フォーム、運営基本フォームをあらためて全へき連から示してもらえないかという依頼がありました。そして、全へき連で推進している形式ではないと感じるところが、どこのブロックにもありました。また、その形になるにはそれだけの理由があり、苦勞しながら試行錯誤の末、現在のかたちになったのだろうということも同時に推察できました。

そのため、いい機会なので、改めて全へき連として大会基本フォーム、運営基本フォームを閉めさせていただくことにしました。その理由として、本来のかたちと違ってきている部分はなぜそうなのかということを探ることにより、これまでの課題解決の糸口になるかもしれません。また、一步踏み出そうとしているブロックがあったら大きく背中を押すことにつながるかもしれないと思います。

研究推進協議会が実り多きものとなるようにとの願いを込めての挨拶がありました。

また、研究協議Iでは、古田研究部長より、第9次長期5か年研究推進計画について説明がありました。

研究主題について「故郷に夢や誇りをもって」とは、故郷の持つ力を生かし、たくましく

「生きる力」をはぐくむ教育である。「未来のつくり手」とは、子どもたちが大人となった時には65%が今にない仕事に就くという未来像を見据えた教育実践であること。また「教育の原点はへき地にあり」という言葉に、自信と誇りをもって教育実践に立ち向かう熱意を大切にしたいということ。

そして、今まで積み上げてきた実践をもとに、「全国は一つ」という思いをもち進めていきたい。その一つとして、実践事例集の活用を各ブロック、学校で進めていただきたいとの話がありました。

研究協議Ⅱでは、第68回全国へき地教育研究大会長野大会の成果と課題について、宮島豊研究部長より説明がありました。

冒頭に、台風19号の被害に対して、全国よりお見舞いのメッセージを多数あり感謝を述べられ、大会の開催にあたり3年間かけた準備であったこと。そして、分科会会場での子どもたちの様子は生き生きと活動し、地域とつながりを大切にした取り組みが印象に残ったという感想があったこと、運営面では、実行委員会に各会場校校長（教頭）が支部会に常に出席し体制づくり、組織的な活動をした。その中には、台風時等の危機管理の事前検討を重ねていたことも紹介されました。また、全国で参加の呼びかけをしていただき300名を超える県外からの参加者があり盛会となりました。

第69回全国へき地教育研究大会富山大会について、松岡弘美研究部長より説明。加盟校が18校と減少したことで運営取り組みについて校長会とも連携して準備を進めている。

・令和2年10月8日(木) 全体会・課題別分散会 富山県民会館（富山市）

9日(金) 分科会

記念講演 (株)能作 能作 克治さん

アトラクション 富山県立南砺平高等学校 郷土芸能部

分科会場 県内6会場

・「ひとり学びと、とも学び」

・オニバス イタセンパラなど貴重な自然財産や伝統文化を交えた各校での研究の発表を予定

○第70回全国へき地教育研究大会宮崎大会について、吉弘哲章研究部長より説明。

令和3年10月28日 宮崎市 シーガイヤ コンベンションセンター

29日 分科会

記念講演 アトラクションは交渉中

分散会 6分散会 シーガイア

ブロック別研究協議会では、ブロックごとの情報交換及び交流の時間をもちました。以下のような点についても願いとしてお話がありました。

- ・複式学級の技術で大規模のクラスでも、班分けして「わたり」「ずらし」という技術や同時関接の授業展開の可能性を開いていくのもよいかと思う。
- ・へき地を「蒼地」と表記した先生もいた。そのことの願いは、輝きを持って我々がへき地教育に取り組みたいという意味からである。
- ・複式の授業など実践事例集の指導案や事例を挙げているので、学校1冊の保管にとどまらず、各先生方の活用できるよう案内してほしい。

2日目には、文部科学省 初等中等教育局 教育課程係 専門官 平 千枝 氏より「新しい学習指導要領の実施に向けて へき地・複式・小規模校としての留意点」という演題で講演をしていただきました。(会員ページに講演内容と資料を掲載)

すべての日程を終え、会長挨拶より、二日間にわたり、第9次長期5か年研究推進計画の初年度として、熱心で有意義な研究推進協議会となったこと。また、全国へき地教育研究連盟の位置づけは、櫻田会長のときには、指導要領の改訂においても文科省からの意見聴取がある等、意味深いものがある旨紹介されました。指導講話のスライドについても、講師から情報提供をしていただいております、データについては会員用ページに掲載する予定であること。また、会員用ページの閲覧について、研究機関等からの問い合わせもあることと、加入費については、300円を払ってもらったが振込手数料のほうが高かったということもあり、今後検討をしていきたいことなど説明がありました。

気づかれたこと等も、各ブロック長に問い合わせいただき、意見や状況を把握していきたいとの願いを伝えられ閉会となりました。